

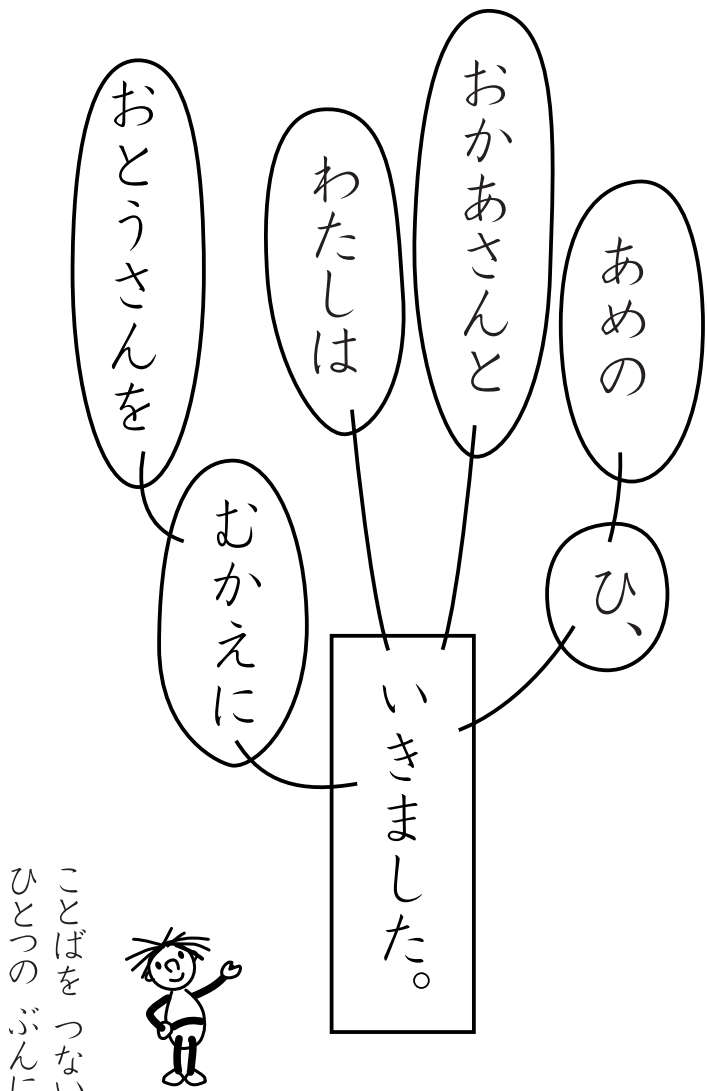
1) 図を見せ、ひとつの文を思い起こさせる。いろいろあつてよいが、最後はまとまりの良い一文にこだわり着かせる。図は「文ふうせん」と呼んでも良い。  
3) マス目に書かせる。ここでは分ち書きをせず、文節での改行もしない。

a) 文字を連ね文を書く体験。  
b) 言葉のつながりの焦点を述部においた文構成。文意識を育てる。  
c) 後の「文の木」や「文サボテン」の先行課題。

Date  
Note  
評



あめのひ、おかあ

ことばをつないで  
ひとつのぶんにかこう。